

つながる防災隊

No.20

発行：令和5年1月20日

発行人：四日市市地区防災組織連絡協議会

会長 里中 俊雄

目次

1. 協議会活動の報告 1P
2. 各地区での取り組み 3P
3. 防災情報 ... 5P

今回は、事例発表会や総合防災訓練、各地区の防災への取り組みをご紹介します。

事例発表会を行いました

四日市市地区防災組織連絡協議会 会長 里中 俊雄

令和4年11月9日に、四日市市文化会館第3ホールにて事例発表会を行いました。今回は八郷地区と浜田地区が発表し、四日市市消防本部 小住消防救急課長にご講演をたまわりました。

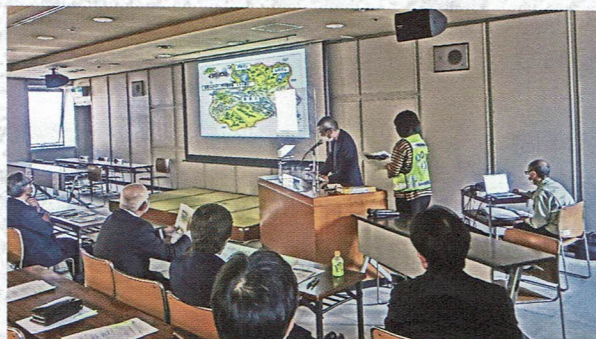
八郷地区は「女性目線の避難所運営」と題して、八郷地区防災連絡協議会の毛利会長と女性防災チーム「えがお」の小崎様に発表して頂き、浜田地区は「互助・互敬の精神を育てよう 被災者ゼロのまちづくり」と題して浜田地区自主防災組織連絡協議会の山路会長に発表して頂きました。

小住消防救急課長は「四日市市の消防力と大規模災害時の消防応援体制について」と題して、四日市市の消防の状況、能力について講演していただきました。

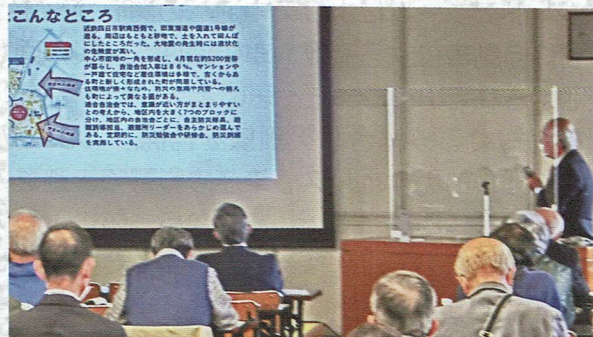
事例発表会は新型コロナウイルス感染症の影響下も継続して開催しており、各地区の防災活動について考えることができる貴重な機会です。今回のアンケートでも事例発表会を今後も開催してほしいというお声を頂いております。これからも継続して開催できるよう努めてまいります。



【小住消防救急課長】



【事例発表(八郷地区)】



【事例発表(浜田地区)】

市民総ぐるみ総合防災訓練を実施しました



四日市市役所危機管理課

令和4年9月4日(日)に、桜地区にて市民総ぐるみ総合防災訓練が行われました。新型コロナウイルス感染症の影響で、一昨年、昨年と2回中止となりましたので、実に3年振りの総合防災訓練となりました。

桜小学校をメイン会場、神前地区の総合防災拠点をサテライト会場として、午前8時に震度6強の地震が桜地区で発生したと想定し、住民の安否確認訓練や避難所への避難訓練、一斉放水訓練など様々な訓練を行いました。

今回の訓練では警察、自衛隊やCTYなど関係諸機関や、桜地区の住民約300人が参加いたしました。新型コロナウイルス対策で、参加される方は事前に名簿を作成し、当日は検温を行いました。参加された方々のご協力により、訓練を無事終えることができました。参加された皆様には、改めて感謝申し上げます。



【体育館展示ブース】



【災害対策本部運営訓練】

今回の訓練では、体育館を展示ブースとして使用し、地域住民や市職員が協力して、プライベートルームや簡易ベッドの組立といった、避難所設営訓練が実施されました。プライバシーや効率的な住み分けなど、今後さらに重要になると思われます。

加えて、自動車による避難場所への避難訓練も行いました。自動車での避難は場所が必要なことや、渋滞など様々な課題があり、現状では避難方法として推奨されていないものの、自動車で避難される方もみえると想定されるため、参加された方の一部は

桜小学校へ自動車で避難していただきました。

近年はハイブリッド車で電源を確保ができることや、アウトドアブームにより車中泊への関心が高まっております。自動車による避難や車中泊は、防災の面からも今後活用されていくことだと思います。

市民総ぐるみ総合防災訓練を再開するまでの3年間に、新型コロナウイルス感染症の影響で、避難のあり方は変わりつつありますが、これからも防災・減災の意識向上を図れるよう取り組んでまいります。「自助」・「共助」・「公助」は今後も変わらず大切ですので、引き続き四日市市の防災活動にご協力をお願いいたします。



【放水訓練】

情報伝達のレジリエンス(防災力)向上へ

下野地区防災協議会 会長 水谷 嘉則

新型コロナウイルス感染症の流行によりこの2年間中止を余儀なくされた下野地区の防災訓練は、令和4年9月11日にデジタル無線機による情報伝達訓練を実施し、各町もそれぞれ課題に取り組んでいます。

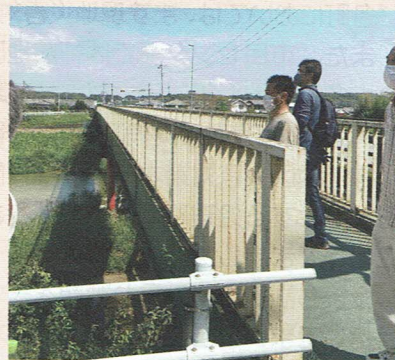
特に情報伝達訓練は、中央に朝明川が流れ、指定避難所3か所はすべて川の北側の低地にあり、南北は丘陵地で土砂災害警戒区域も多くあるという下野地区の地形から、いかに早期に現地調査し、正確な状況報告、応援依頼等ができるかが課題であるとして、かねてより力を入れています。

地区内の山城町では、こちらも3年ぶりに名古屋大学減災連携研究センター特任准教授である倉田先生のご指導の下、スマートフォンアプリ(CASI-KA)を用いた情報伝達訓練が実施されました。町公民館の本部に設置したパソコンの地図上に現在位置が示されている各調査員に指示を与え、送られてくる画像、文言等を整理し、必要度の高い情報をリストアップし、下野地区市民センターへ送信するという内容でした。

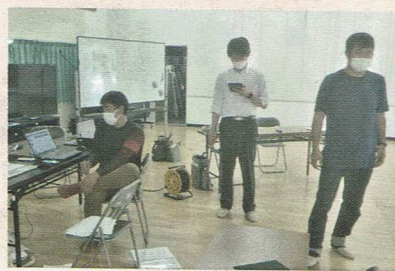


【災害対策本部設置】

大雨等災害時に対応できるのか、インターネット環境は維持されているのか、知識をどのように継承していくのか等々課題はありますが、情報伝達のレジリエンス向上策として、より一層の活用を検討していったらどうかと考えております。



【現地調査】



【山城町公民館本部】

子どもたちと「自分の命を守って被災者ゼロへ」

浜田地区自主防災組織連絡協議会 会長 山路 和良



【今年6月15日に実施した避難訓練の様子①】

浜田地区の多くは「浜辺の田んぼ」を埋め立てた土地です。大地震が発生すれば間違いなく「液状化現象」が起こり、大津波が来ればほとんどが水没、電気・水道などライフラインが使えなくなり、長期間水が引きません。マンションの高層階に逃げる垂直避難ができたとしても、そのような状況で生活をするのは困難です。しかも、自衛隊や消防などが救助できる被災者には限度があります。そうした点から浜田では、「まちは西へ」を合言葉に、浸水の恐れのない安全な区域外の「マイ避難所」をあらかじめ決めておき、そこへの避難を推奨しています。

その担い手は「子どもたち」です。地区内の中学校と小学校は毎年共同で「大津波から逃げる訓練」をしています。学校にいるときに大津波警報の発令を想定して、全校児童生徒約700人が、みんなで津波の来ないところまで逃げるのです。

災害時に子どもたちが安全に避難し、自分で自分の命を守ることを知っていれば、その家族も安心して自分の命を守る行動に全力を尽くすことができ、結果的に家族全員が助かる可能性が高くなります。それぞれがまず自分の命を守ることを最優先にすることから犠牲者がゼロになる防災ができるのです。

中学生は地区の防災訓練にも土曜授業として参加しています。専門家による防災知識の研修もしています。子どもたちが防災の意識を高めることで、大人への波及効果を狙っています。その子どもたちが大きくなれば地域を守る力になります。

次世代に期待することで、継続して地域の防災力を高め、大人を巻き込んで、被災者ゼロのまちを目指しています。



【今年6月15日に実施した避難訓練の様子②】

四日市市と連携した災害対策本部運用防災訓練の実施

神前地区自主防災協議会 会長 佐藤 房雄

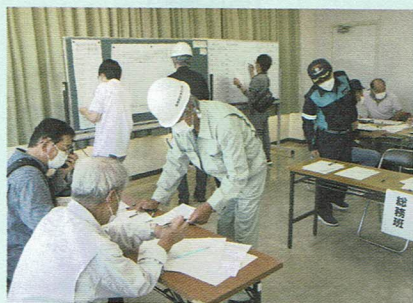
東南海大地震発生時に予想される崖崩れ・家屋の倒壊・火災・三滝川の決壊などによる被害を各町みずからが想定し、10月16日午前9時00分防災無線のサイレンを合図に各町一斉に防災訓練を開始しました。

各町においては、まず現地災害対策本部を設置するとともに全世帯への組長による安否確認を実施しました。

また、市民センターでは神前地区災害対策本部を設置し、そして四日市市では、市災害対策本部が設置され、各町現地災害対策本部・神前地区災害対策本部・市災害対策本部の3者が緊密に連携し、安否確認・被災情報・指定避難所開設及び病院開設情報・火災対応・三滝川氾濫危険対応などの情報伝達訓練を行いました。

神前地区災害対策本部では訓練開始時、各町現地対策本部との情報伝達量が多く情報班・総務班・本部長を中心とする処理班の連携が乱れましたが時間の経過と共に立て直しを図り、緊張感の中防災訓練を終えることができました。

今後も訓練を積み重ね課題を一つ一つ克服し、大災害発生時に住民に期待される神前地区自主防災組織を目指してまいります。



【災害対策本部運用防災訓練の様子】

小学校で防災授業を実施

塩浜地区防災協議会 会長 佐藤 忠嗣

塩浜地区防災協議会では、毎年地区内小学校児童に防災授業を実施してきましたが、コロナ禍により昨年末で中止を余儀なくされました。今年度は、感染対策を行いながら実施に踏み切りました。実施内容は、小学3年生、4年生を対象に「防災に関する新たな発見!」をテーマに街中の海拔表示看板・避難所案内看板などを目で見えて表示内容の説明、防災倉庫の備蓄品、非常用持出袋の防災グッズをクイズ方式で関心度を高める工夫をして行いました。

また、防災のDVD「命を守る! 避難の3原則」を見て、津波発生時の避難の在り方・ハザードマップの見方を解説しました。最後に、全員が起震車による地震の揺れを体験・体感しました。

参加した児童からは、津波を意識した避難の大切さや、避難訓練に参加することの必要性を理解して、感想文を出してくれました。さらに後日、防災ポスターを作製し、学習した内容を全校児童に放送で伝え、私達が想定していた以上に関心の高さが感じられ、これからの支援活動に注力していきたいと考えております。



【防災授業全体の様子】



【防災クイズ】



【防災倉庫の説明】



【起震車体験】

大雪時の注意事項について ご確認ください

大雪への備えとして、次のことに注意しましょう。

なお、大雪時は、不要不急の外出を控えましょう。

(降雪情報は気象庁や四日市市防災気象情報HPなどでご確認ください。)

○事前に備えておきましょう！！

- ・積雪で外出できないことに備えて、水、食料、燃料（灯油）などを備蓄する
- ・持病の薬を切らさないよう、少し多め（早めのご準備を）に持つ
- ・停電に備えて、使い捨てカイロ、予備電池、懐中電灯、携帯ラジオなどを準備する

○やむを得ず外出する場合は細心の注意をしましょう！！

- ・路面凍結している部分は歩かない（なるべく避ける）
- ・普段よりも時間に余裕をもって行動する
- ・軒下のそばには近づかない（屋根から雪が滑り落ちてくることがある）
- ・スタッドレスタイヤ、チェーンなど滑り止めを必ず装備する
- ・車間距離を十分取る
- ・吹雪の中で運転する際は、ライトを点灯する

○除雪をする時は注意しましょう！！

- ・作業は家族、となり近所にも声をかけて2人以上で
- ・建物のまわりに雪を残して雪下ろし
- ・晴れの日ほど要注意、屋根の雪がゆるんでいる
- ・低い屋根でも油断は禁物
- ・面倒でも命綱とヘルメットをつけましょう
- ・作業の時には携帯電話を持っていく



共助による地域の除雪協力の働きかけ

民有地の除雪は、各家庭または各事業者による対応が原則となります。

しかし、豪雪の場合には、高齢者世帯などご自身による除雪が困難な場合もあるほか、通学路や利用者の多い交通安全上重要な歩道の除雪については、地域の方の協力が必要となります。

助け合いの除雪にご協力をお願いします



～ 外国人の方へ ～

A los ciudadanos extranjeros
Aos cidadãos estrangeiros
For Non-Japanese speakers

～防災情報は多言語化されています～

Informaciones de apoyo multilingüe sobre gestión de catástrofes

Informações multilíngues sobre prevenção de desastres

Disaster prevention information is available in multiple languages



ハザードマップは英語、スペイン語、ポルトガル語版もあります。

また、四日市市の防災サイトは多言語に対応しています。以下のURL、QRコードからご確認ください。

Los mapas de peligrosidad también están disponibles en inglés, español y portugués.

El sitio web de prevención de catástrofes de la ciudad de Yokkaichi también está disponible en varios idiomas.

Consulte las siguientes URL y códigos QR. 【スペイン語】

Os mapas de perigo também estão disponíveis da cidade de Yokkaichi está disponível em várias línguas.

Verifique no URL e código QR abaixo. oníveis em inglês, espanhol e português.

Além disso, o website de prevenção de 【ポルトガル語】

Hazard maps are published in English, Spanish, and Portuguese.

In addition, Yokkaichi City's disaster prevention website is available in multiple languages.

Please check the following URL and QR code. 【英語】

【四日市市 防災情報】

<https://bousai2.city.yokkaichi.mie.jp/home/>



避難所における外国人避難者受入訓練 in 四日市市

四日市市役所危機管理課

令和4年11月20日（日）に消防本部で避難所での外国人避難者の受入訓練を行いました。

地区防災組織関係者や消防団、市役所職員等も参加しました。また講師として（一財）熊本市国際交流振興事業団の八木浩光常務理事を招き、災害時に必要となる外国人の受付だけでなく、やさしい日本語を使った避難所のルール説明や相談対応といった実践的な対応方法についても訓練しました。

この訓練は外国人の方の避難所受入について考える契機となりました。今後も様々な方を対象とした防災啓発について検討してまいります。

